



# カメラ探訪

文学のふるさと

その19 旭志村

わたしの  
ぼくの  
郷土

熊本市立五福小学校 六年 金守 寿美子

私達の郷土は火の国と呼ばれ世界にほこる阿蘇山は今も噴火を続けている。外輪山を自然のびょうぶに私達の街がひろがる。そのよ  
うな街中に深緑の木立に囲まれ、一きわ美しい姿の熊本城を持つ。

私達の街は森の都、水の都と呼ばれ、その名にふさわしく、小高い丘に登ると緑の木々の間に屋並が見える。道ばたには、いちよう  
やポプラ並木があり、夏は木かげで暑さをしのぎ、秋は美しい葉が舞いおどる。四季に咲きみだれる可愛い花々は道行く人の足をと  
どめる。

東には日本一いや世界一おいしい湧き水の豊かな水前寺公園や江津湖がある。春の一日江津湖に父母と私とで、クレソンを探りに  
行った。クレソンはサラダにもあえ物にも大変おいしく、湧き水の清流にしか育たないというのがうれしい。つみ終わってボート乗  
りをした。湖の中心部でオールがつかえ、はね上る黒い土は、まるで田んぼだった。

私達の街もどんどん人口がふえ五十万都市になった。発展の反面このような自然がこわされていくのは本当に悲しい事だ。この豊か  
で恵まれた自然を見直し、自覚して一人一人が大事に守り育てなければならぬ。

緑と豊かな水に恵まれている、それだけでもすばらしい郷土だ。その上また数しれない程の名高い史跡もある。昔ながらの町並をみ  
せ、当時のはん菜をしのばせる問屋街、数多くの寺院、八月にくり広げられる市民総おどりの火の国祭りや秋のほした祭り。楽しい祭  
りはいつまでも明るい郷土を保っている。

私達一人一人が自然を愛する気持ちをしかりと育て守るならば、将来も森の都、水の都として受けつがれるにちがいない。  
私達の美しく豊かな郷土をいつまでも守って行きたい。

## 歌集「筑摩鍋」 — 宗 不 早 —

山に居れば遠方野辺のもえ草を  
心に留めて高きより見る

菊池郡旭志村の鞍岳山中に宗不早の歌碑が建っている。宗不早は熊本が生んだ孤高の放浪歌人である。大陸放浪10年の間に培われた東洋の詩魂は、生来の反骨と相俟って名利を斥け、硯工を業として貧に堪えながら各地を漂泊し、短歌を生命として自己の世界を深めた。不早は生涯不遇の人で、昭和17年阿蘇内牧を出た後消息をたち、この山中に薄幸の生涯をとじた。

歌集「筑摩鍋」には大正13年から昭和4年におよぶ作品382首を集めてある。